

閉会挨拶

東京文化財研究所副所長 山梨 絵美子

本日は、佐賀大学の芸術地域デザイン学部と当文化財研究所との共同研究のキックオフという位置づけで、染織文化財の保存をテーマとして研究会を持つことができました。

染織品は、どこの文化におきましても人々の生活に非常に深く根差したものであり、日本でも大変優れた技術によって育まれてきたものです。

本日は国立文化財機構の中の博物館、また文化庁の方のご参加も仰ぎ、長く現場と保存に関わってこられた方々が一堂に会して、それぞれの限られた予算と環境の中で、どのようにご苦労しておいでになるかという現場の声も聞くことができ、大変に有意義な会になったと思っております。

文化財の保存・修復に関する知識としてある程度共通のものはございますが、各々の現場は、それぞれのご事情がある中での技術を育てられ、それ

らから共通のものを今後生み出していくことが課題になっていると思います。皆さまに、本日もご理解をいただきましたように、日本の文化財の保存には問題が山積しており、予算の問題や技術者の不足といった問題も多々ございます。今日の研究会は本当に第一線の方たちにお話しいただき、とても有意義な会でした。ぜひ若い方々はこういう体験を大事になさって、今後ご自身の糧にしていただければと思います。

最後になりますが、本研究会は佐賀大学の石井先生のご尽力なくしてはできませんでした。深く御礼を申し上げます。また、小坂学部長様にも、尽力いただきましたことに深く御礼を申し上げます。どうもありがとうございました。また、暑い中、ご参加いただいた、皆さまお一人お一人にも深く感謝いたします。ありがとうございました。